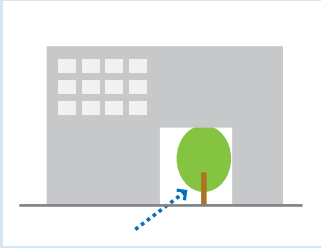


見え方が楽しめる工夫

意識して周辺の建物の形を工夫することで、歴史的景観資源の違った一面を楽しむことができます。



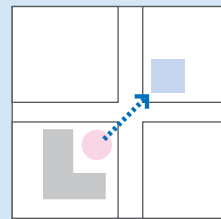
歴史的景観資源が眺められます

向かいの建物の2階には、時計台が良く見えるテラスがあり、地上からとは違った眺めを堪能できる場所となっています。



様々な場所から眺められる工夫

歴史的景観資源に面して窓やテラス、庭を設けると、ゆっくりとその建物を眺めることができます。



歴史的景観資源により付加価値を高めています

隣接した建物は、1階のアプローチ空間や店舗から時計台を眺められるような開口部を設けることで、建物の付加価値を高めています。

歴史的景観資源のみどころ

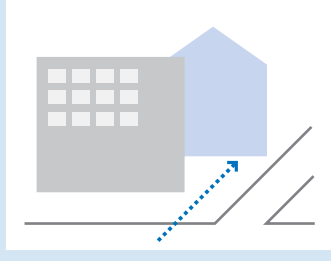
時計台は頭でっかち?

札幌を代表する歴史的建造物となっている「時計台・札幌市郷土博物館」は、かつては札幌農学校(現北海道大学)の演武場として建てられました。しかし、当初建築された時計塔にアメリカ製の機械を納めようとしたところ、大きすぎて納まらなかったため、後に時計塔のみが作り直され、当初の設計と比べて建築本体のわりに頭でっかちな現在の姿となりました。



様々な場所から 楽しめる工夫

周辺の建物の配置や形態に配慮すると、通りの遠くからでも、歴史的景観資源を見ることができます。



歴史的景観資源が 良く見えています

隣接する建物がセットバックすることで、歴史的景観資源への見通しが良くなっています。

地域活動の場として 使用されています

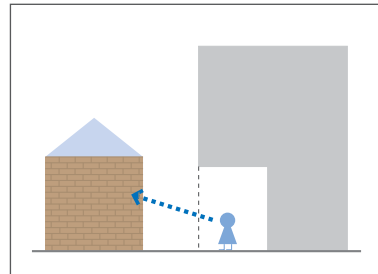
ぽすとかんは、旧石山郵便局として利用されていました。現在は、地域の会合や子どもの習い事など様々な場面で活用されています。



景観 まちづくりの POINT

歴史的景観資源の価値を取り込んでみましょう

周辺の建物を整備する際は、歴史的景観資源の様々な魅力を取り込むと、お互いの価値が高まります。例えば、歴史的景観資源の壁面に特徴がある場合などは、壁面側に開口部を設けたり、アプローチを壁面沿いにつくことで、空間に変化と豊かさが生まれます。



歴史的景観資源のみどころ

札幌軟石には様々な表情が

札幌の街の草創期に建築材料として活躍した札幌軟石は、約4万年前に支笏湖を形成した火山活動の火砕流堆積物が熔結したもの、アメリカ人技師のアンチセルによって発見されました。現在でも南区常磐に採石場があり、建築の壁面材や庭石などに使われています。

当時は全て職人による「手掘り」で切り出されており、表面の仕上げには、のみ跡を残す「のみ切り仕上げ」や岩肌をごつごつ残す「こぶだし仕上げ」、のみの先で突き跡を残す「突き仕上げ」など様々な仕上げ方があります。

